

- 1 会 議 名 地方創生に関する調査特別委員会
- 2 日 時 令和2年3月11日（水） 9時59分開会
14時06分閉会
- 3 場 所 議場
- 4 出席委員 岩崎健二委員長、竹之内和満副委員長、川上洋一委員、
濱門明典委員、白石純一委員、濱田洋一委員、
竹原信一委員、濱崎國治委員、中面幸人委員、
牟田学委員、木下孝行委員、濱之上大成委員、
山田勝委員、仮屋園一徳委員
- 5 事務局職員 次長兼議事係長 牟田 昇、議事係 松崎 正幸
- 6 説明員
- ・市長 西平 良将 君
 - ・副市長 春原 善幸 君
 - ・教育長 中野 正弘 君
 - ・総務課消防係
参事 的場 博俊 君 係長 牛之濱宏信 君
 - ・教育総務課
課長 山元 正彦 君 課長補佐 牛濱 睦郎 君
係長 東 岳也 君
 - ・学校教育課
課長 小園 俊介 君 課長補佐 新坂 謙二 君
係長 上村 嘉代 君 係長 鳥羽瀬やす子 君
 - ・学校給食センター
所長（兼） 山元 正彦 君 係長 別府 輝雄 君
 - ・生涯学習課
課長 尾塚 禎久 君 課長補佐 新塘 浩二 君
係長 吉國 耕二 君
 - ・総務課
課長 松崎 裕介 君
 - ・財政課
課長 小菌 達哉 君
 - ・都市建設課
課長 石澤 正志 君
 - ・企画調整課
課長 山下 友治 君
 - ・商工観光課
課長 堂之下浩子 君
 - ・スポーツ推進課
課長 小中 茂信 君
- 7 会議に付した事件
・議案第10号 阿久根市まちづくりビジョンについて
- 8 議事の経過概要 別紙のとおり

審査の経過概要

岩崎健二委員長

ただいまから、昨日に引き続き、委員会を開催します。

ここで、昨日の質疑において、農政課から耕作放棄地に関する資料及び総務課から鶴翔高校の就職者数について回答が来ており、配付いたしましたので、御確認をお願いいたします。

それでは、総務課消防係所管の事項について、審査に入ります。

消防参事の説明を求めます。

的場消防参事

それでは、議案第10号について、総務課消防係所管事項を御説明申し上げます。ビジョン本編の71ページをお開きください。

基本目標4の基本政策3は消防・防災対策の充実であり、②の消防体制の整備では、消防資機材の計画的な整備など消防体制の充実、災害発生時に迅速かつ確実に対応できる消防体制の確保、若年団員の確保や消防団員の高齢化などと、72ページになりますが、③の救急体制の整備では、救急活動による救命率向上のため、資機材の整備や応急手当に関する知識の更なる普及が課題となっております。これらの課題に対する主要な施策の方向性として、②では火災予防について、啓発広報の実施や計画的な消防資機材の整備、緊急消防援助隊や県内消防本部との応援協定に基づく応援体制や受援体制の充実、近隣消防本部との協力体制の強化、消防団活動を広く周知し、消防団活動への理解を求め、消防団員の確保など。③では、計画的な資機材の整備を進め、応急手当に関する講習を継続的に実施し、広く知識を普及する取組を促進などに取り組むこととし、73ページになりますが、K P Iとして、住宅用火災警報器の設置率を最終で95%に、消防団員充足率を毎年95%以上、普通救命講習受講者数を毎年200人とする目標を設けております。

なお、これらの施策に関し、令和2年度は、普通消防積載車や小型動力ポンプなどの消防団車両や資機材の整備、家族表彰制度を活用しての消防団員の家族の表彰、市民を対象とした救命講習の開催などを行うこととしております。

以上で説明を終わりますが、どうぞよろしく申し上げます。

岩崎健二特別委員長

参事の説明が終わりました。

これより、質疑に入ります。

白石純一委員

73ページ、K P Iの消防団員充足率、基準値のところは棒線になっています。現状ではどれぐらいですかね。

的場消防参事

現在、定員224名に対して219名であり、充足率は97.7%であります。

[白石純一委員「了解」と呼ぶ]

岩崎健二特別委員長

ほかにありませんか。

川上洋一委員

私はAEDのことをちょっと聞きたいんですけど、集落にですね、AEDを1個ずつでもつけていけば、高齢者も多くなったからどうなんだろうという考えも少しあったもんですから、そういう考えはないですかね。

的場消防参事

川上委員にお答えします。基本的に設置については消防組合、あるいは市のほうでも、管理するところには設置するところもありますけれども、主体的に、今、おっしゃった集落、あるいは公共機関等につける計画はありません。ただ、コンビニとかもですし、自分の事業所等で設置するところもありますけれども、そこについては阿久根消防署のほうで設置するところは把握はしてるんですけども、ただ、管理の問題で、例えばそこに設置してあるんだよというところもありますけれども、24時間開いてない場合、そこに入れなくてAEDを使えなかったというところもあります。そういった面も含めて、1台去年の12月補正で上げましたけれども、一式で大体30万程度しますので、その30万程度の分につきまして各集落等に配備できるかということについては、現在のところ考えておりませんが、救命率、また社会復帰率について非常に我々消防としましても重要なことと考えておりますので、今後、どういったことができるのか、ということを考えていきたいと思っておりますけれども、12月補正のところで各消防団のほうには、ポンプ車ですけれども、令和元年の補正、平成30年の補正でAEDを分団には設置しております。

川上洋一委員

分かりました。それで、今のAEDってかなり性能が良くなって、それこそ素人でも使えるような、講習を受けてなくても使えるようなアナウンスも出るみたいですので、私の知り合いも船につけてるのがいるんですけど、やっぱりそういうのって区長さんとか、そこら辺とよく話をして、集落に1個あれば何分何秒の世界の品物ですから、1回本当に検討してほしいところです。要望でした。

岩崎健二特別委員長

ほかにありませんか。

中面幸人委員

まず、ソフト面の防災知識の普及とか啓発、防災訓練等のソフト面については十分じゃないなと私は思ってるんですが、防災に対する消防の資機材の整備にというのは、阿久根市、消防組合、遅れてるんですかね。ある程度完備されてる状況なんですか。お聞かせください。

的場消防参事

消防組合のほうの答弁をさせていただきますけれども、今、阿久根市、長島町の1市1町で構成しているわけですけれども、消防に対してそれぞれ市、町も理解がございまして、市、町のほうで資機材等購入していただきまして、例えば阿久根消防署、東分遣所もタンク車、あるいは高規格の救急自動車につきましても阿久根市、あるいは長島町のほうで購入しておりまして、貸借契約を結んで配備していただいております。はしご車につきましても、SKですけれ

ども、整備していただいておりますし、救助工作車、あるいは資機材等について救急もですけれども、私の考えでは十分、ほかの消防本部と比べましても充実しているというふうに考えております。

岩崎健二特別委員長

ほかにありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

なければ、総務課消防係所管の事項について、審査を一時中止いたします。

(総務課消防係退室、教育総務課・学校教育課・学校給食センター入室)

岩崎健二特別委員長

次に、教育総務課、学校教育課、学校給食センター所管の事項について、審査に入ります。

教育総務課長の説明を求めます。

山元教育総務課長

議案第10号のうち、教育総務課、学校教育課及び学校給食センターで所管する主な事項について御説明申し上げます。

まちづくりビジョン本編の79ページをお開きください。基本目標5豊かな心が育まれ文化の薫るまちの基本政策1は、人材育成であり、①の次世代人材の育成では、学校教育はもとより、様々な経験を通じて豊かな感性や社会性を身に付けていくことが重要であり、鶴翔高校との連携強化などが課題となっております。また、②の学校教育の充実では、確かな学力を身に付け、自ら学び、主体的に行動できる児童生徒の育成や、学力の定着に向けた更なる取組みと家庭教育の充実、特別支援教育の更なる充実、職場体験学習の実施等を通じたキャリア教育の充実、80ページになりますが、小中学校の規模やあり方についての検討、老朽化した学校施設の計画的な改修、プログラミング教育の充実、就学や進学等の費用の負担が困難な保護者等に対する支援の充実や学校の統廃合に伴う通学手段の確保、学校給食における地産地消の推進などが課題となっております。これらの課題に対する主要な施策や取組の方向性としては、①の次世代人材の育成では、鶴翔高校と本市の包括連携協定を踏まえ、教育の分野においても連携を図ることとしております。

81ページを御覧ください。②の学校教育の充実では、全国学力、学習状況調査等の結果を踏まえ、基礎・基本の定着を図り、思考力などの応用力の向上に取り組むほか、家庭学習の充実に向けた取組を推進します。また、児童生徒の特性に応じた特別支援教育の充実と推進、生きる力を身に付け、主体的に意思決定できる児童生徒を育成するため、職場体験学習などのキャリア教育の充実に努めることとしております。

また、学校規模適正化については、本市の実情に即した学校の規模、あり方を検討し、質の高い教育環境の整備に努め、学校施設については、規模適正化との整合性を図りながら、長寿命化改修計画を踏まえ、計画的な改修を進めるとともに、プログラミング教育の充実を図るためのICT環境の整備を推進することとしております。

さらに、就学や進学等の費用の負担が困難な保護者に対する支援や学校の統廃合に伴う通学手段の確保についての支援を行うとともに、次世代を担う人材育成に資する奨学金制度の利用促進に努めることとしております。

学校給食センターにおいては、安全な学校給食を提供するとともに、地産地消に努め、地元食材に対する理解を深めるなど食育を推進することとしております。

重要業績評価指標として、学校施設等長寿命化改修計画を踏まえた改修棟数を累計で6棟、学校給食における地元食材の使用率を最終で55%とする目標を設けたところであります。

なお、これらの施策に関し、令和2年度は、引き続き学校施設長寿命化改修事業や特別支援教育支援員配置事業、学力向上支援員配置事業、学校給食地産地消推進事業などを実施することとしております。

以上で説明を終わりますが、どうぞよろしく申し上げます。

岩崎健二特別委員長

課長の説明が終わりました。

これより、質疑に入ります。

白石純一委員

81ページの4つ目、学校規模適正化協議会の提言、これはいつ出てきますか。

山元教育総務課長

この提言については、今月、3月を目途に提言を取りまとめようとしているところでございます。

白石純一委員

こういう5か年計画の前に本来であれば示していただいたほうが、こちらとしては判断もしやすいんですが、今議会中には出てこないんですか。

山元教育総務課長

今のところ、まだ議会中に提言をこちらのほうにいただける状況にはまだないというところでございます。

中面幸人委員

本編の80ページと81ページに記載されておりますが、先ほどほかの委員から質疑がありましたが、学校の規模適正化に関連してでございますが、いわば小中学校の統廃合の問題、これは一番市民が関心しているところであって、今日の会では基本的な考え方ということでございますけど、提言が3月に出されるということでございますが、ある程度所管課としてはですね、5か年でどのような方向性をもってですね、進めていくかというのはある程度考えていらっしゃると思うんですが、さわりでもいいですから、そうしないと市民、保護者の方でもですね、不安に思っていると思います。もう10年前にいろいろ問題も上がりましたけれども、そのあと10年、今はですね、やはり保護者の方も大きい学校で子供たちを学ばしたいという考えの方が大分出てきております。その辺あたりを地域の方にも理解させなければならないというふうに思っておりますが。そういう全体的な流れについて、考えを発言できればしてもらえませんか。

山元教育総務課長

この規模適正化の提言については、現在、規模適正化協議会におきましてい

ろいろ検討がなされているところをごさいますて、教育委員会といたしましては、その提言を受けたあと市としての規模適正化に向けた方向性を定めた上で進めていければと思っているところをごさいます。なので、今の段階では規模適正化協議会からの提言の中身がどういったことになるかというのは、こちらとしてもお示しできるところがないところをごさいます。規模適正化協議会の議論の中ではやはり複式学級の解消とか、そういったのを図っていくべきではないかというような議論はなされているところをごさいます。

岩崎健二特別委員長

ほかにありませんか。

竹之内和満委員

不登校の児童・生徒に対する記述がないようでごさいます。不登校の児童・生徒に対してどのような対処をしていくつもりでありましょうか。

小園学校教育課長

不登校に対して記載はありませんけれども、これまでどおり、学校に対して担任や各学年の管理職等による教育相談や家庭訪問とか、スクールカウンセラーによる児童・生徒や保護者へのカウンセリングとかというのを行いながら、不登校の解消に向けて取組んでまいるということをごさいます。

竹之内和満委員

その不登校の児童・生徒は、ここ数年で減少傾向にあるんでしょうか、それとも増加傾向にあるんでしょうか。

小園学校教育課長

一概に増加傾向にあるとか、減少傾向にあるということとは言えないんですけども、実際問題として、現在は小学校5名、中学校24名ということで、29名、少なくともこの人数を下げることに向けて頑張っていきたいと思ひます。

竹之内和満委員

大きな問題ですので、不登校に関しては。ぜひ、ビジョンには入っていませんがやっていたきたいと思ひます。

岩崎健二特別委員長

ほかにありませんか。

濱門明典委員

鶴翔高校から地元企業への就職のあっせんというんですかね。目標値は5名となっているんですが。

岩崎健二特別委員長

濱門委員、それは所管課が違いますので。就職者については総務課並びに商工観光課の所管になりますので。

濱門明典委員

失礼しました。あと一つ、学校給食の地産地消ということでやっとなられるようですが、目標値が55%あるんですけれども、どのような品目というのが地産地消に向けられてるのか、ちょっと教えてください。

[発言する者あり]

どういふのが地産地消で、今現在、標準値といふのが52.7といふのが、今まで地元で食材として上げられる物はどういふものがあるんですかといふことで

す。

[発言する者あり]

山元給食センター所長

この学校給食センターにおけます地産地消の取組の中で、これまで重点的に取組んでおりますのは、大きなものとしたしましては、一つは米飯に用いておりますお米を阿久根産を用いるようにしているということがございます。あと、使用料の多い野菜としたしましては、ミカン、ポンカン類、ジャガイモ、キュウリ、こういったところが量として多いところでございます。

濱門明典委員

この地産地消の場合は契約農家というのがあるんですか。

山元学校給食センター所長

野菜の品目によって契約農家もあるということです。

[濱門明典委員「ありがとうございます」と呼ぶ]

岩崎健二特別委員長

ほかにありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

なければ、教育総務課、学校教育課、学校給食センター所管の事項について、審査を一時中止いたします。

(教育総務課・学校教育課・学校給食センター退室、生涯学習課入室)

岩崎健二特別委員長

次に、生涯学習課所管の事項について、審査に入ります。

生涯学習課長の説明を求めます。

尾塚生涯学習課長

議案第10号について、生涯学習課所管の事項を御説明申し上げます。

ビジョン本編の83ページをお開きください。

基本目標5の基本政策2は、生涯学習の推進と社会教育の充実であり、①の生涯学習の推進では、生涯学習講座や各種学級の新規受講生の増、市立図書館などの新たな施設整備、②の社会教育の充実では、家庭の教育力を向上させるために地域全体で家庭教育を支援していくことなどが課題となっております。

これらの課題に対する主要な施策・取組の基本的な方向性としては、84ページになりますが、①では、各種講座や学級の開催期日や時間の見直しを行うこと、新たな図書館については、財源の確保に努めること。②では、家庭教育に関する研修会の開催や家庭教育支援啓発活動や学校応援団活動を推進することとしており、85ページに記載のK P Iとして、生涯学習参加者総数を単年度で2,100人、学校応援団ボランティア活動総数を単年度で1,500人、図書館利用者数を最終的に年間3万8千人、家庭教育学級参加者数を単年度で1,300人、ジュニア・リーダークラブ会員を単年度で20人とする目標を設けております。これらの施策に関し、令和2年度は、図書館建設についての財源の検討、地域学校協働活動の整備、推進等に取り組むこととしております。

次に、86ページをお開きください。基本政策3は、文化の振興とスポーツの推進であり、①の文化活動等の推進では、風テラスあくねを中心とした交流・賑わいの拠点づくり、郷土に保存・伝承されてきた文化・芸能・歴史の継承、あくね洋画展の若年層の出展数の増などが課題となっております。これらの課題に対する主要な施策・取組の基本的な方向性としては、87ページになりますが、風テラスあくねでは市民が身近に文化芸術を鑑賞できる機会の充実を図ること、地域の郷土芸能を守り、継承していく活動の支援、あくね洋画展では市ホームページ等だけでなく、SNSによる情報発信に努めることなどに取り組むこととしており、88ページになりますが、KPIとして、文化財関係団体育成件数を累計で25件とする目標を設けております。

なお、これらの施策に関し、平成2年度は、各種自主文化事業、郷土芸能団体への運営補助等を実施することとしております。

以上で説明を終わりますが、どうぞよろしく申し上げます。

岩崎健二特別委員長

課長の説明が終わりました。

これより、質疑に入ります。

竹之内和満委員

84ページ、子供会の団体数と会員数ということで、子供たちが減っているの
で会員数は減るんだろうと思いますが、団体数が非常に減っております。うちの集落のほうも子供会がないんですが、この子供会をどうやって維持を
しているのか、何かそういう対策を立てていらっしゃるのでしょうか。

尾塚生涯学習課長

今、竹之内委員が言われたとおり、子供会の団体数の減少、会員数の減
というのは大きな課題の一つであります。これに対する今後の方向性としては、現
在ある子供会の組織を維持しながら、子供会活動の良さや大切さを多くの方
に知ってもらい、無理のない範囲で地域での体験活動等を推進する体制づくり
を図っていく必要があるんじゃないかと考えているところです。例えば、市子連
を中心に子供会がある、なしにかかわらず、子供たちへの体験活動を提供
できるような場を設定したり、単子子供会がない地域でも子供たちの希望
があれば、市子連が事務局となって希望する児童を加入させ、様々な行事
等を企画したりしていくことが子供会の増につながっていくんじゃないかと
考えているところです。

竹之内和満委員

うちの集落もなんですが、子供会を廃止するということは大体親の都合
で減るんですね。子供のことをほとんど考えてない。親が忙しいから、
面倒だからしたくないという理由がほとんどだと思うんですが、
そうした場合、引き止めるのはなかなか難しいような気がするんですが、
一応、引き止めたり、継続してくださいということは言ってもらえる
んですかね。

尾塚生涯学習課長

はい、継続して、そのようなお願いとか依頼はしているところです。

竹之内和満委員

なかなかしても、やめるということは難しいと思うんですが、やはり地域コ

コミュニティの中で、子供たちがこういう子供会に入って一緒にいろんな行事をするのはとても大切なことですので、子供会がないとラジオ体操もできない状態ですので、ぜひ、これ以上減らないように、もしくはなくなるところを増やしていくような努力をしていただきたいというふうに思います。

岩崎健二特別委員長

ほかにありませんか。

山田勝委員

85ページなんですが、K P Iのところでは学校応援団ボランティア活動とかですね、あるいはジュニア・リーダークラブ会員とかというののね、基準値と目標を書いてありますが、これはどこが主催をしてやるんですか。

尾塚生涯学習課長

学校応援団については生涯学習課、教育委員会で中心になってやっております。ジュニア・リーダークラブも生涯学習課のほうで主として組織をつくっております。

山田勝委員

例えば、脇本小学校を見ればですね、おやじの会というのがあってですね、運動会あたりで緑門を作ったり、いろんな形でお手伝いしてくれてるんですね。あれも教育委員会がまとめてんの。

尾塚生涯学習課長

各学校のおやじの会は、各学校、単Pでの主催で組織している団体だと思っております。

山田勝委員

なら、あなたたちがやっているのは具体的にどういうのがある。学校応援団ボランティア活動総数についての、具体的にどういうのがあるんですかって。

吉國社会教育係長

具体的な取組についてお伝えします。今現在、学校支援活動ということで、地域の方々が学校の教育活動にいろんな支援をされてるんですが、地域と学校はもともとネットワークが昔から強くて、地域の方が学校に入っているいろんな教育活動を支援しています。生涯学習課で実際行っているのは、学校が例えば教科でミシン活動とか、家庭科の調理活動でどうしても支援がほしいという要望が生涯学習課に来たときに、こちらで地域の方々を依頼して、そして学校と地域をつないで、そして学校のほうにボランティア派遣しているというような形で取組んでいるところです。

山田勝委員

分かりましたけど、具体的に阿久根市内でどこではこうこうしてます、あそこではこうこうしてますよっていうのは、例えばどこですか。

吉國社会教育係長

例えばですね、阿久根小学校でいきますと、家庭科でどうしてもミシンがたくさんあるんですが、1人の先生でなかなかトラブルがあったとき対応できないということで、地域の方々に入っていただいてミシンの操作を支援したり、あるいは特別支援学級の校外学習のときに引率でボランティアで入っていただいたり、あるいは調理実習のときに郷土料理を作るといいうきに入っていた

いたり。まだあるんですが、あとは書道のとくに書道の経験のあるボランティアの方が入っていただいたりというような形で、学校の教育活動の中に入っていただくという取組をしています。

山田勝委員

そういうネットワークは生涯学習課で人材を発掘し、ネットワークをつくり、各学校に紹介するんですか。

吉國社会教育係長

こちらのほうでもネットワークは持ってますし、もともと学校とそこの地域のネットワークがあります。それも地域の方が支援ということで、直接学校から地域の方々をお願いして、そして支援に入る、それも学校応援団の一つということでとらえています。

山田勝委員

非常にいいことですよね。ただ、私はこう思ってるんだけど、いいことだけど、そういう方々にね、どのような形でですよ、皆さん方のおかげでよかったですよとか、例えば書面でもお礼をいうのか、あるいは何かお礼をするのか、そういうのも全然、ただそのときお願いするだけで終わりということですか。

吉國社会教育係長

学校から直接地域の方々をお願いしたときは、その学校がいろいろ対応されたりしてるんですが、私たちがボランティアでしたところはですね、学校からお礼文が来たり、子供たちの感想文が来たりということで、それをボランティアの方にお渡ししたりということでお礼をする形になっています。

山田勝委員

次にですね、ジュニア・リーダークラブ会員15人を20人にしたいということですが、これは子供会活動を支援したり、地域のいろいろな行事にスタッフとして参加する市内在住の中学生及び高校生とするボランティア団体のことで、私も何回かお見かけしますがね、保育園の運動会とか、どっかの何かとか。それも生涯学習課で主催をされて、そういうネットワークをつくっていらっしゃるんですか。

吉國社会教育係長

ジュニア・リーダークラブにつきましては、事務局を生涯学習課がしているということで、実際、募集等も含めて生涯学習課でしています。ただ、年間計画を立てるときは中・高生が集まって、自分たちでこういうのをしたい、これに参加したい、ボランティアしたいということで、当初4月の話合いの中で自身については決定していく状況です。

山田勝委員

私は保育園、幼稚園のですね、運動会等にいますと、中学校の子供たちが大変お手伝いをして、やってる姿を見てるのでね、そういうのを皆さん方がそういうお手伝いをしてるのかなと思って、もしするとしたら、いろいろ忙しい中で大変立派なことですねって思っているだけの話でございます。そういうことなんですね。

吉國社会教育係長

基本的にはそのような形ですが、多分、中学校もジュニア・リーダークラブ

だけではなくて、中学校でまたお手伝いをしたりというところもあると思います。ですので、全てのジュニア・リーダークラブだけが行くというわけではなくて、地域によってはそういう形で中学生がお手伝いに行ったりという状況もあるのではないかと思います。

尾塚生涯学習課長

今の山田委員のジュニア・リーダークラブの件で、今日はせっかくこういう機会ですので、議員の皆様にも紹介したいと思いますが、年間通して社会奉仕活動、地域貢献活動というのもこのジュニア・リーダークラブの会員の子供たちがやっております。例えば、市内の運動会があり、50歳組を歓迎する場合に駅の清掃をしたり、今年度で言えば10月の華のバーベキュー大会、番所丘で毎年開催するところですが、365段の階段の清掃をしたり、そういうこともジュニア・リーダークラブで行っております。

山田勝委員

今ね、せっかく課長が言っていて、ほんとによく頑張ってるなと思いますよ。募集するときには各学校を通じてやるんですか。どういう形で募集するんですか。

吉國社会教育係長

募集をするときは各学校にチラシ、募集要項を配布して募集をしている状況です。

山田勝委員

そういうことなら、ちょっと人数が少ないなと思いますよね。365の階段をね、全部掃除をしてもらうというのはね、大変なことですよ。あわせて掃除をしてもらうということは大変だけど、やっぱり何らかの形でね、彼らにもね、やはりバーベキュー大会じゃないけど、ありがとうを言う会を、謝恩会をするとかということをしなないとね、お世話になることばかりじゃないかなと思いますよ。

仮屋園一徳委員

風テラスあくねについてですね、図書館については指定管理者委託をされてるんですが、風テラスあくねができる前、いずれは指定管理にという話も出てきたんですけど、今回あれはうたわれてないんですが、現在は文化事業とかは生涯学習事業とか非常に多くされてるんですけど、指定管理については今後進められていくのか、それとも今のまま生涯学習課が当分の間はそのままで管理をしていくということになるのか、その辺をお聞かせください。

尾塚生涯学習課長

今の御質問であります、今の風テラスあくねのみですので、当面は直営でということですが、今後、図書館建設が具体化して完成した場合は、図書館と風テラスあくね一体となってどのような形で指定管理を導入したほうがいいのか、そういうことで検討していこうと考えているところです。

仮屋園一徳委員

なんでかと言うとですね、土曜日、日曜日、ほとんど行事が入っているみたいで、大変だなと思います。そういったことから、今後どうなってるかお聞きしたしたところです。了解です。

岩崎健二特別委員長

ほかにありませんか。

中面幸人委員

88ページの一番上段になります。このビジョンですね、5年間で考えていく問題ではないですけども、かごしま国体のことについて話をさせていただきますが。

岩崎健二特別委員長

中面委員、国体のことについてはスポーツ推進課の所管になりますので、生涯学習課ではありませんので。国体関連であれば。国体関連であればスポーツ推進課ですよ。

[発言する者あり]

中面幸人委員

関連があるからちょっと言わせて。というのがですね、48年ぶりに国体が鹿児島県で行われる。そしてまた阿久根でも、幾つか種目が阿久根で開催されるわけなんです。それに対してほかの自治体はですね、テレビ等のコマーシャルで宣伝してますよね、アピールしてますよね。阿久根はちょっと足りないような気がする。

[発言する者あり]

岩崎健二特別委員長

できるだけ委員長としては各委員の意見も聴取したいと思いますが、所管課において答弁のできる範囲で、答弁できなければ答弁できないで結構だと思います。答弁できる範囲があれば答弁していただければと思いますので。

[発言する者あり]

山田勝委員

今、中面委員が言うのも非常に重要なことだから、一応終わってからね、もう一遍スポーツ推進課に来ていただいてしたらどうですか。

[発言する者あり]

[中面幸人委員「あとでいいです。すみません。」と呼ぶ]

[発言する者あり]

岩崎健二特別委員長

一応、総括は計画はしております、全所管が終わってからですね。ただ、スポーツ推進課は向こうにあるわけですから、皆さんの時間的なものはどうかというのはありますけど、総括を予定はしておりますので、そこらを考えてお願いいたします。

今、中面委員からありました、かごしま国体についてのPR不足があるんじゃないかというような意図だと思うんですが、生涯学習課で答弁ができるものがあれば答弁をお願いします。なければないで結構です。

尾塚生涯学習課長

国体関連で直接生涯学習課でPR関係というのはありませんが、県内外、全国から阿久根にも今回のかごしま国体に来られる方が多いことですので、市内で今年度生涯学習課の中で計画しているイベント等について、そういう機会も兼ねて今年度行っていきたいと考えております。例えば阿久根洋画展は8月開

催ですので、国体のPRも兼ねてできればいいかと考えています。

岩崎健二特別委員長

ほかにありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

なければ生涯学習課所管の事項について、審査を一時中止いたします。
暫時休憩いたします。

(生涯学習課退室)

(休憩 10:47~10:48)

岩崎健二特別委員長

休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

以上で各課の審査は終了しました。

ここで、各委員の御意見を伺いたいと思います。

何か意見はありませんか。

[発言する者あり]

暫時休憩します。

(休憩 10:49~10:59)

岩崎健二特別委員長

休憩前に引き続き委員会を再開します。

ここで、各委員の御意見を伺います。

また、総括して市長に聞きたいとのことでもありますので、質疑したい箇所のページ、質疑内容をお知らせください。まとめて市長のほうに出して答弁をいただきたいと思います。

まず、御意見はありませんか。

山田勝委員

私は地域の魅力ある広がりつながりのまちというところですね、47ページなんですが。

岩崎健二特別委員長

山田委員、それは市長への総括ですね。

山田勝委員

そうです。

岩崎健二特別委員長

ちょっと待ってください。各委員の意見はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

各委員の意見はないと認めます。

それでは次に、統括して聞きたい箇所についてお伺いします。

山田勝委員

今、47ページを見てるんですけどね、47ページ。いいですか。地域の魅力ある広がるつながりのまちという全体の中ですね、これをどうしてもこれを市

長に聞きたいのでお願いします。

岩崎健二特別委員長

具体的にありますか。

山田勝委員

具体的にいろいろ上がっているんだけど、例えばね、南九州自動車道とか、北薩振興道とかというのはね、阿久根市がだまっていっちょてんなあわけやだよ。だから、そのほか、例えば旧国民宿舎跡、あるいは阿久根高校跡、あるいは中央青果跡等々について、市長に覚悟を聞きたい。

[発言する者あり]

岩崎健二特別委員長

旧国民宿舎、旧阿久根高校跡地、阿久根中央青果跡地について、市長の見解を伺いたいということですか。

ほかにありませんか。

山田勝委員

梶折鼻公園もや。ごめん。

岩崎健二特別委員長

それでは旧国民宿舎、旧阿久根高校跡地、阿久根中央青果跡地及び梶折鼻公園入口の改良工事について、市長の見解を伺いたいということですか。

ほかにありませんか。

中面幸人委員

88ページ、一番上段になります。かごしま国体についてですけども、これは今年開催される単年度のことになりますけれどもですね、せっかくこうして48年ぶりに、前回もボクシング会場となった、今回もボクシング会場となった阿久根市がですね、これを機にしてですね、5年間やはり。例えばですよ、例をとれば、隣の伊佐市なんかではボートをやりますけれども、あそこはですね、会場をですね、周年ああいうボートの競技場の会場として使えるように、国交省と話をしながらですね、開発してきました。阿久根もいい機会ですから、せっかくこうしてボクシング会場、これを利用して周年にわたる、結構お金も使うわけですから、5年間にですね、これを基にした交流人口を増やすというか、スポーツ振興をすることによってですね、交流人口を増やすような政策に取り組んでもらいたいと。単年度事業でありますけど、これを基にして5年間のそういうふうな計画を組んでほしいという意味で、もう1回お願いをいたしたいと思います。

[発言する者あり]

岩崎健二特別委員長

国体を契機とした今後のスポーツ振興についてということによろしいですか。ほかにありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

なければしばらく休憩します。

(休憩 11:04～13:30)

(執行部入室)

岩崎健二委員長

休憩前に引き続き委員会を開きます。

市長に出席いただきましたので、2名の委員から通告のありました事項について、市長への質疑を行います。

初めに山田委員から、基本目標2、地域の魅力が広がる「つながる」のまち、基本政策2、定住と交流の促進における交流基盤の整備について質疑をお願いします。

山田勝委員

阿久根市のまちづくりビジョン、5年間を策定するに当たりまして、非常に重要な計画だと思っているんですよ。ですから、各課長からいろいろ説明をいただきましたけれども、でも、ビジョンは分かるけど、形が見えるものにしないとですね、語ったばっかい、計画したばっかいではもう、時間がないという気がするんです、阿久根市はね。だから私は市長に、地域の魅力広がる「つながる」のあるまちをつくるためには、やっぱりちゃんとしたものをせないかなあと思う中でですね、資料の47ページにあります、南九州西回り自動車道のこととか、北薩横断道路、あるいはサンセット牛之浜景勝地「道の駅」、あるいは旧国民宿舎、阿久根高校跡、中央青果市場跡、それぞれございますけれども、例えば、南九州自動車道路及び北薩横断道路については、阿久根市は計画も何もしなくても通る。これは金も要らない、ちゃんとできてきます。だからそういうのに阿久根市が一生懸命考える必要もないんですよ。阿久根市がしなければできない交通基盤の整備をしてほしいなと思うので、今日申し上げたいのは、この中で、例えば旧国民宿舎についても、一応、私も一般質問しましたけれど、市長が、大体見えてまいりました。今後どうなるかは期待しながら待つとしてですね、それから、阿久根高校跡についてもなかなか難しい話だと思いますよ。でも、これもせずつにいちよくわけにはいかんですからね。だからこれもせないかん。しかしながら、自分たちの手の届く範囲でできるようなこと、例えば中央青果市場跡とか、あるいは、私は新たに委員会の中で申し上げたのですけれど、梶折鼻公園の入り口をちゃんとした整備をしますとね、あそこには観光バスが行く一つの阿久根の魅力ある拠点になるんですよね。阿久根市の入込人口を図る拠点になる。だからそういうことを、果たしてどう思っているのか、どれくらい具体的にやろうと思っているのかという、市長の決意を聞きたくてお願いした次第であります。

西平市長

山田委員にお答えいたします。

初めに、旧国民宿舎の跡地の活用の今後の展開ということでありますけれども、現在、HKR社との連携に基づきます、旧国民宿舎跡地を含む土地を中心とした宿泊施設を含めた観光振興に資する開発の可能性についての検討調査の成果、このことにつきましては、報告書としてとりまとめを現在行っております。現段階での本市における宿泊施設の誘致、整備の可能性について、国内の観光開発事例等を参考に、地理的な要因、観光資源の状況を分析して、その分析結果を踏まえて、旧国民宿舎跡地及びその周辺における将来の観光開発のイ

メージを、市が目指すべき方向性の一つの案として取りまとめて、今月中に、市民あるいは議会、そして関係団体にお示しすることを考えているところでございます。また、これまでに2回行いました、事業者公募の結果、議会での議論等を踏まえまして、旧国民宿舎跡地における利活用に関する取組をさらに進めるために、令和2年度において現在の施設を取り壊すこととして、関係費用を当初予算に計上させていただいております。今後もH K Rとの連携協定については継続しつつ、引き続き跡地周辺における本市の将来にわたる観光振興に資する開発の可能性を探求するというを目的に、跡地活用に向けた取組を進めていきたいと考えているところです。

次に、旧阿久根高校跡地の今後の展開についてであります。

建物の現況及び可能性の調査結果を、昨年8月に市のホームページに掲載させていただきました。このことが、昨年8月31日付の鹿児島建設新聞にも記事として取り上げられております。今後は、民間事業者からの問い合わせにも対応しつつ、阿久根市公共施設等総合管理計画に基づいて、現在保有している施設の機能を整理する中で、旧阿久根高校跡地に求められる機能について、市民の皆様からの意見もいただきながら検討を進めていきたいと考えております。なお、御案内のとおり、この土地・建物につきましては、県の所有であるということから、県の御意見をいただくなどにより課題の整理も必要になってくると思っております。どのような利活用が望ましいのか、施設管理者である県とも協議を行っていききたいと思っております。

次に、青果市場の活用方策についてであります。

青果市場跡地の活用については、青果市場跡地等活用検討委員会で協議、検討がこの間なされて、先月、報告書が提出されたところであります。その内容については以前も御説明申し上げましたけれども、解体はやむを得ないとされたところがございます。それと今後の活用については、この場所の立地という条件から、単にこの場所だけを活用の対象として考えるのではなく、北さつま漁協が管理、所有しております旧港施設等との一体的な活用を提案する。こういった面的な活用を図るべきではないかとの意見が多く出されておりました。現時点で具体的な活用方策を決めるということではなく、今後においては、この場所が地域活性化に資する面的整備の一部として、その有効な活用が図られることを望むということで意見が出ているところがございます。市ではこの報告を受けまして、令和2年度において、現在の施設を取り壊すことと、そしてまた現在の土地については令和2年度においても市が公共用に使用するというを目的として、所有者である県に対して占用を継続できるよう現在協議を行っております。委員会の報告を踏まえて、周辺施設と合わせた一体的な活用の方策について検討していきたいと考えているところです。

なお、この場所は市街地の中心に位置をしております。また周囲には漁港施設や飲食、商業、宿泊施設等もあって、整備活用による効果は広く及ぶことが期待をされる土地でございます。また一方では、現在の南九州西回り自動車道の整備に伴いながら、サンセット牛之浜景勝地の新たな道の駅について整備を促進することとしており、こういった計画も視野に入れながら、その進捗を見守っていくことが大事だと思っております。先日の一般質問の中でも出ました

ように、この施設を中心にしてですね、阿久根市街地に人が下りてくるような、そういう取組が必要だと考えておりますので、こういったことを踏まえて所有者である県との協議も行いながら周囲と連携して、この場所の特性が十二分發揮できるような活用方策について、研究をしていきたいと思っております。

最後に、梶折鼻公園の入り口の整備についてであります。

先日の、一般質問においてもお答えをしたところでございますが、当該地につきましても、地形上の制約もあるということから事業費が多額になる見込みであるといったことで、事業化に向けては様々な課題もあることを認識しております。今後とも県と十分連携を取りながら、また、現在行っております県に対する要望の結果、こういったものも踏まえながら検討を進めていきたいと考えているところでございます。以上です。

山田勝委員

市長から説明をいただきましたが、旧国民宿舎についてはもう結構であります。もう取り壊すということとですね、それはもう早急にできないということも十分私は分かっておりますので、それはもう市長、気長にですね、長い目で育てていくしかないと思っておりますので、この件については了解をいたします。

それから、旧阿久根高校についても、もう何遍も言うように機を逸してしまっただけでございますので、阿久根市がかなり金をかけないかんかもしれないけれど、誰か希望者が出てきたり、手を挙げてくれたりしたらいいなと思っておりますので、これも結構でございます。

青果市場のことについては、市長が非常にですね、前向きに説明をいただきました。だから広く、旧港も含めて、あの市街地も含めて一つの阿久根のまちの核となるような、やはり利用を考えなければ、折口で下りて、阿久根のまちのどこに行くんですか、ここに行きたいというところをつくらないと、誰も阿久根に下りてくれる人はいないと思っておりますよ。市長が言われる「ぶえんかん」で飯を食って番所丘公園に行くだけで、果たして、子供連れの人は来るかもしれませんが、全体的に阿久根市をPRするというのには不足ですよ。ですから、この中央青果市場跡地については市街地にあるということに合わせて市街地の活性化、そして港も含めてですね、これは阿久根市のね、最後の絶対的なプロジェクトだという気持ちでおりますので、検討委員会じゃなくて、市長が俺はこんなのをつくりたいんだという、大きな夢でですね、ロマンで、あなたのロマンで実現してほしいという気持ちでありますので、あなたもそういう気持ちであるのかどうかをお尋ねしたいと思います。

西平市長

お答えいたします。

西回り自動車道の延伸によりまして、この地域の経済というのは大きく変わってきたと思っております。具体的には、出水市への距離感というのは非常に近くなりましたし、生活の利便性もかなり向上したものだと思っております。ただその一方で、これがどんどん進んでいきますと、いわゆるストロー現象、この地域から出ていくんじゃないかというようなこともあるというふうに危惧しているところであります。おそらく皆さん方もそういったことを十分危惧され

ている中で、では地域として何をしていかなければいけないかという、やはり来てもらいたくなる、来てみたくなるというような施設、あるいは体験できるもの、こういったものを整備していくものが必要だと思っております。今、議員お尋ねの、この青果市場の跡地含め、活用できていない阿久根市の資産というのは確かにございます。県の資産ももちろんございますけれども、そういったものを十二分に活用して、全線開通の利に、この効果をもっと得られるような形を取っていけるように、整備についてはしっかり考えていきたいと思っております。以上です。

山田勝委員

市長、順番を考えたときに、市長は全線開通と言われた。前線開通してからこの問題に着手しますとね、誰も寄りませんよ。

西平市長

私、先ほどの中でですね、全線開通を見据えたと申し上げたと思うのですが、見据えたということは、開通してからでは当然遅いということは分かっております。そうなる前に、開通したら最大限の効果が発揮できるような取組になるように努めていきたいと思っております。

山田勝委員

分かりました。全線開通したらですね、鹿児島からもどこからも来れるような、寄れるような、やはりね阿久根の魅力を発信せないかんと思っておりますので、時間もないということをお頭のの中に入れて、時間がないということをおすね、考えていただきたいということでこの件については終わります。

それから、梶折鼻公園については、非常に金がかかるということは分かっていますよ。ですから、金がかかる場所だから県の協力を得て、県の事業でもらった方がいいよという形で一生懸命私も取り組んでいますよ。県議会の皆さん方も来て取り組んでいただいて、北薩振興局も、阿久根の都市建設課も入れて現地検討会もしましたし、その後、現地の調査をしたりあるいは検討会をしていると思っておりますよ。でもこれはね市長、阿久根が一生懸命になってあそこを観光バスが入るようになったらね、また違った形で梶折鼻公園は、例えば観光バスが行く、あるいは食事をされたあの下はですね、ものすごくいいキャンプ地でもありますし、また違った形で阿久根の名所が私はできると思うので、これもやはり早急にやる必要がありますよ。ですから、一生懸命取り組んでください、計画の中に入れてくださいと思っております。一節もないからこういう話をするのであります。理解いただけますか。

西平市長

この梶折鼻公園の取付道路につきましては、先ほど申し上げましたとおり、現在、県と協議を行っていてその結果を待っているところでございます。議員お尋ねの、これが計画に載っていないということでもありますけれども、委員会の中でも課長が申し上げましたように、路線あるいは事業、こういったもの一つ一つのことについて取り上げているものではございません。ただ、この計画の中にもありますように、現在、松木弘安の旧家などということで市内の観光資源、周辺環境を整備するというのを上げております。現在、脇本地区、寺島宗則旧家、そして笠山観光農園、こういった面的なものが少しずつ整って

きておりますが、そういった意味の一環として、梶折鼻公園についても県の事業を使って整備をしてきたところがございます。そういったことから、決してこの施設のことをないがしろにしていることはなく、脇本地区、ひいては市内一丸となった観光の拠点としての整備の位置付けというふうに私の中ではしているところがございます。以上です。

山田勝委員

市長の熱意が伝わってきたというふうに受け取りましょう。熱意が伝わってきました。ですから、梶折鼻公園、松木弘安、まあ笠山観光農園はちょっとですけれどもね、脇本海岸も含めて、こことこことこを連れて回れるよという、そういう観光のルートをね、私はつくれると思うから言うんですよ。そういうことで、頑張ってください。以上で終わります。

岩崎健二委員長

山田委員の質疑は終了しました。

次に、中面委員から、基本目標 5、豊かな心がはぐくまれ文化の薫るまち、基本政策 3、文化の振興とスポーツの推進におけるスポーツの推進について、質疑をお願いいたします。

中面幸人委員

それでは、ビジョンの本冊子 88 ページの、基本目標、豊かな心がはぐくまれる文化の薫るまち、基本政策として文化の振興とスポーツの推進について、ここはスポーツ推進課所管でありますけれども、鹿児島国体のことが取り組まれておりますので。今ですね、5 年間における阿久根市の長期ビジョンについての審査をしているところではございますが、今回、本年度に 48 年ぶりに鹿児島で開催される単年度事業の鹿児島国体のことで、質疑をさせていただきます。

まず一つが、本市ではボクシングの競技が行われることとなっておりますが、他の種目が開催されるほかの自治体と比べて、のぼり旗等を立てたりとか、そういうアピール、宣伝が足りないのではないかと思いますかどうか。

スポーツ推進課長

国体の広報活動について不足しているんじゃないかというお尋ねですので、本年度の取組について答えさせていただきます。

まず広報活動としまして、横断幕等を市役所玄関と総合運動公園等に設置しております。あと道の駅に設置しておりましたけれども、風で飛んでいる状況で、今できていない状況です。それからのぼり旗につきましては、総合運動公園、市内小中校等に設置しているのですけれども、現在、いろいろなイベントが重なったりしておりますので、取り外しをしたり、そのときにつけたりとかして対応している状況であります。あと、市の広報誌に本年度から紙面 1 ページを使いまして国体の PR を行っているということと、南日本新聞の 1 面に広告を掲載したところです。ちなみに本年は 2 面に広告を載せる予定でしております。あと、みどこい祭りや番所丘グリーンフェスタとか、そういった市のイベント等がありますけれども、そういうのを活用して国体の PR に出向いているところがございます。あと、一昨年度中学生に絵画を描いてもらいましたけれども、その絵画コンクールを行いまして、その作品を市役所ロビー等に、あるいは風テラス等に展示をしたところです。それから、小中学生等に対しまし

ては、各都道府県のものぼり旗を作成したり、花いっぱい運動でプランターを栽培して、リハーサル大会等で飾っていただくということで小中学校に対しての広報活動を行いました。あと、啓発用グッズとしてボールペンとか、バッグ、あるいはうちわ等を作成してイベント等でお配りをして広報したということになっています。あと、そのほかで、他のイベントを通じての広報としましては、5月にボクシングの動きを生かした健康エクササイズを体育館のほうで実施しております。それから、6月にビーチフラッグスを脇本海水浴場でしております。それから、7月に海の子カーニバルが今年遠泳ということで、それを想定した取り組みを行いました。あと、リハーサル大会は御承知のとおり、第89回全日本ボクシング選手権大会として総合体育館で取り組みましたけれども、これについては、決勝についてNHKのBSで生中継をさせていただいたということ。あと観客数については、これは推計ですけれども、全体で4千人程度と見込んでいるのですが、最大の瞬間としまして決勝のときに約600人の観覧者があったという状況です。あと、今年に入りまして1月に、国体の開催を記念した阿久根スポーツフェスタということで、阿久根大使の元プロボクサーの淵上さんをお呼びしてトークショー等を実施したということで、これらを通じて広報活動をしておりますけれども、これに対して不足する分については今後もいろいろ、今年状況を踏まえて令和2年度は対応していきたいというように考えています。

中面幸人委員

今の課長の説明で、今までやってきたこと、また、大会までの広報等について十二分な説明がございましたけれども、私がこういった話をするのはですね、他市町の方から言われまして、鹿児島県で48年ぶりに行われると。そして、鹿児島県に19市町村あってですね、その中で阿久根市がこうしてボクシング会場になるわけですから、それにまあ、ボクシングに関連した方からの話でございましたけれども、やはり、そういう人から見ればちょっとアピールが足りないのかなというふうなですね、私もそういう気がしましたので。今後は、今、課長が説明されたように、たくさんの方の広報等が流されるみたいなので、市民ばかりじゃなくて、県外、地区外にもアピールできるようなやり方を考えていただきたいというふうに思っております。

次に、この国体を契機に5年間のビジョンの中に、48年前も開催市となった、このボクシングを基軸とした交流人口の増加推進のための政策を取り組んでみてはと思いますが、そういうような考えはございませんか。せっかくこうして二度、阿久根市がボクシング会場に選ばれたわけですから、ぜひ何か、これを機会に取り組んでほしいと思うのですが、そういうのがこのビジョンの中になくような気がしますので質問します。

西平市長

中面議員にお答えさせていただきます。

国体を契機としたスポーツ振興ということでのお尋ねということで、お答えをさせていただきます。

スポーツイベントの開催ということは、交流人口の増加だけではなく、参加者の交流、親睦を深めるということと共に、地元の子供たちの競技力の向上で

あつたり、地域のスポーツ振興に寄与するなど、地域振興には大きな効果があると考えております。このため市のほうでは、主催する大規模なイベントとしては、阿久根のボンタンロードレース大会、それと、今回中止になりましたけれども九州選抜高等学校駅伝競走大会、こういったものを開催しているところでもあります。国体を契機とした取り組みということで申し上げますと、ボクシング協議に関しては、ボクシング協議の特殊性から市の単独で実施することは難しいところがございます。しかしながら、県単位の大会ということであれば、県民体育大会の開催等について鹿児島県ボクシング連盟と協議を行っており、実施することは可能であると考えております。全国規模になりますと、これはもう全日本ボクシング連盟との話になってきますので、少しハードルが上がっていくので難しいと思いますが、県の大会であると、そういったことから開催は可能ではないかと思っております。また、平成30年度からは5月のゴールデンウィークの期間中に、県ボクシング連盟主催による合宿を、当阿久根市で行っていただいております。全国からも高校生が集まって来ているとうかがっているところでもあります。この合宿は本年も開催される予定でありまして、今後も合宿を継続していただくこともお願いするなどして、交流人口の拡大に努めていくことも考えられます。いずれにしましても、来年度は国体関連の事業を優先して、既存のイベントを合わせて実施していくということになりますが、その後については、ボクシング競技に限らず、市が主催するイベントとして新たにどのような事業、イベントができるのかを検討していきたいと思っております。以上です。

中面 幸人 委員

例えば、近隣の伊佐市の例をとって話をしますと、伊佐市は早くから、川内川ですね、あの大きい川内川を利用したボート競技ができる整備を国交省と取り組んできて、今回その努力が実って国体も伊佐市で、このボート競技が行われます。伊佐市としては今後、このボート競技を基軸として、全国的ないろいろな協議を伊佐市のほうで取り組んでいく。もちろん、オリンピックとか、ああいう強化選手の合宿の会場になったりとか、そういうのを考えているようでございますので、ぜひ、先ほど市長から説明がありましたように、昔から阿久根もボンタンロードレース大会であつたり、九州選抜高校駅伝大会、そういうスポーツイベントが開催されたり、または、国際大学等の合宿等が行われて、こうして交流人口の増加に努力されているのは分かっておりますけれども、ぜひ、ボクシングという、どこでもはされないものが阿久根で開催されるわけですから、これを機会に、例えばこの競技については今までたくさんの予算をつぎ込んではいないとはいえないと思うんですけれども、ぜひ、こういうボクシングの競技人口も実際あるわけであって、ぜひ、今後5か年のビジョンの中に組み込んでほしいと思っておりますので、その辺も今後検討してやってもらいたいと思っております。

岩崎 健二 委員長

要望でいいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

以上で、本議案に対する質疑を終結いたします。

(執行部退室)

岩崎健二委員長

これから採決に入ります。なお、議案に関する賛成・反対の表明については、討論の中で行うようお願いいたします。

それでは、本議案について討議に入ります。

討議ありませんか。

白石純一委員

長期計画は計画として高い目標を持つことは決して悪いことではないと思うのですが、審査の過程で、例えば、阿久根市と長島町での出生率の間に大きな開きがあると。その理由はこういったことが考えられるかということに関して、確たる、はっきりとした理由を把握されてはいないようでした。また、ある年から移住人口が増えた。その理由をお伺っても、はっきりした理由は分からないと。まあ考えられる理由はいくつかあるけれどもということでした。また、耕地面積が下げ止まりしている点についても、いろいろな理由はあるだろうけれども、確たる、この年から急に下げ止まっているというような理由が伺うことができませんでした。このように、阿久根市と比較して先んじている自治体、ある数値では高い実績を残している自治体との比較、なぜその開きがあるのかという理由ですね、そういったことを把握されていない。また、過去のデータの変化、どうしてこのように変わったのかということについてもはっきりと分析、把握されていない。こういうことでは、それらを基に将来の計画を作るべき、その対策が取れると思うのですが、そういったことがなされていたのか、甚だ疑問であります。

岩崎健二委員長

ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、討論に入ります。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

賛成討論ですか、反対討論ですか。

〔「反対討論」と呼ぶ者あり〕

竹原信一委員

総合戦略ということで、総合的な話をちょっとさせていただきたいと思えます。

まず、日本は1999年に公布された地方分権一括法、407項目ですかね。あれによって国と地方自治体は対等であるとされました。国が提案しても、それを受け入れるか受け入れないか、そしてその結果についての責任は完全に自治体にあるということです。さて、阿久根市がこの人口ビジョンをつくるに当たってどのようなことをしたかと言いますと、現状に合わせてスタートの数を減らしました。阿久根市はこの5年間で430人余り、毎年減らしております。この今回の人口ビジョンでは、今後10年間、平均して減少を322人程度になっております。そして次の5年間に201人、次の20年間には年に116人と。こういう計

算になります。この企画課が出した資料によりますとですね、そういうことになります。この計算はどうやったかと言いますと、国立社会保障人口問題研究所が、提案としてという程度に出した特殊出生率2.07にすり合わせていくということで計算を出したわけです。阿久根市の特殊出生率はこの4年間、1.6から1.54に下がっております。特殊出生率というのは、15歳から49歳までの女性が一生涯の間に産む子供の数ですよ。このように非常に厳しい状態にある状況下において、この研究所が提案したものにすり合わせていくことを目標に、この阿久根市の総合戦略とした。おそらく阿久根市のどの課も、この今後10年間の目標が322人程度にするんだよというのは理解していないでしょう。どの課も理解していない状況、そして財政課長が言われたとおり、長期財政計画については今つくっているところだと。需要についても収入についても、今やっている状態です。目標がこんな調子、手段も共有されていない。こんなものは戦略と呼ぶことはできないし、おそらく市長も今年は何人、人口減少どのくらいにするべきなのかということも理解していないでしょう。誰も分からないようなものを総合戦略で出したものを、議会がそもそも議論の対象にすることすら自体がおかしい。話にならないと思います。これは却下すべきです。

岩崎健二委員長

賛成討論ありませんか。

ほかに反対討論ありませんか。

なければ、討論を終結いたします。

それでは、議案第10号について採決します。

議案第10号は可決すべきものと決することに、賛成の委員の起立を求めます。

〔起立多数〕

起立多数と認めます。

よって、本案は可決すべきものと決しました。

以上で、当委員会に付託されました案件は全て議了しました。

ただいま議論されました案件に対する委員会審査報告書の作成及び委員長報告、議会だより原稿の記載及び提出につきましては、委員長に御一任願いたいと思っておりますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。

よって、そのように決しました。

以上で、地方創生に関する調査特別委員会を散会いたします。

以上で、本日の委員会を散会いたします。

(散 会 14時06分)

地方創生に関する調査特別委員会委員長

岩 崎 健 二